

「JENESYS2023」中国青年公益事業交流団第1陣の記録

1. プログラム概要

【目的】

本事業は、中国の政府機関や企業で公益事業・ボランティアに従事する青年等を訪日招聘し、分団別テーマである「農村発展」「幼児教育」「ボランティア活動」の視察・交流等を通じて日本の同分野への理解を深めるほか、日本の青年との親睦や、日本の経済・社会・歴史・文化等が体験できる施設等の参観を通じて、対日理解の促進を図るとともに、日中間の友好関係を強めることを目的として実施しました。

【参加者】中国の政府機関や企業で公益事業・ボランティアに従事する青年等 95 名

【訪問地】東京都、群馬県、栃木県、熊本県

【日程】

■ プレプログラム

10月13日（金） オンライン事前オリエンテーション

■ 招へいプログラム

10月22日（日）～10月28日（土） 6泊7日

10月22日（日） 東京国際空港より入国

10月23日（月） 歓迎会

10月23日（月）～10月27日（金） 3グループに分かれ、テーマに関するプログラムを実施

（1）グループ1：テーマ「農村発展」

【講義・質疑応答】

「日本の農村をめぐる課題と解決の試み」

講師：東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科

「群馬県における過疎対策について」

講師：群馬県地域創生部地域創生課

【視察・交流】

こんにゃくパーク、道の駅まえばし赤城、一般社団法人富岡市観光協会 富岡まちなかガイドの会、一般社団法人片品村観光協会

【日本文化体験】

だるま絵付け体験

(2) グループ2：テーマ「幼児教育」

【講義・質疑応答】

「日本の幼児教育について—なぜ遊びと玩具が重要か—」

講師：白梅学園大学子ども学部子ども学科

【視察・交流】

ギャラクシティ（遊びながら学べる体験型施設）、白梅幼稚園、社会福祉法人ともの会
あさひの保育園、ホームステイ（栃木県大田原市）

(3) グループ3：テーマ「ボランティア活動」

【講義・質疑応答】

「日本のボランティアについて」

講師：公益財団法人日本財団ボランティアセンター

【視察・交流】

公益財団法人日本財団ボランティアセンター、公益財団法人阿蘇グリーンストック、
一般社団法人観光ボランティアガイドくまもとよかところ案内人の会、
ホームステイ（熊本県阿蘇郡南小国町）

【日本文化体験】

キャンドル作り体験

10月27日（金） 東京へ移動、報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

10月28日（土） 東京国際空港より出国

2. 記録写真



2023年10月24日【講義聴講】
「群馬県における過疎対策について」



2023年10月26日【視察・交流】
富岡まちなかガイドの会

	
2023 年 10 月 24 日【視察・交流】 白梅幼稚園	2023 年 10 月 26 日【交流】 栃木県大田原市で民泊体験
	
2023 年 10 月 23 日【交流】 公益財団法人日本財団ボランティアセンター	2023 年 10 月 25 日【視察・交流】 公益財団法人阿蘇グリーンストックでボランティア体験

3. 参加者の感想（抜粋）

グループ 1

◆群馬県では、自治体職員やボランティア、自営業者と交流し、日本の農村・農業発展の現状を総合的に学びました。中国と日本は、高齢化やさまざまな理由による農村集落の減少、農村教育の問題等、共通の問題に直面しています。今回の活動を通じ、農村に移住した人への補助金や新規農業参入者への政策的・財政的支援等、農村定住者を増加させる効果の高い施策を行っていることを知り、日本政府が農村農業の問題に尽力していることを感じました。今後、さまざまな交流活動に参加する機会が増え、多角的な視点から日本社会について学ぶことができればと思います。

◆2つの講演を聞き、中日両国とも人口と農村発展の問題に直面しており、互いに学び、交流する価値がある箇所が多くあることを実感しました。

「道の駅」の概念を初めて知りました。観光客の憩い、情報発信、地場産業の振興という3つの機能を同時に兼ね備えていなければ「道の駅」とは呼べないということでした。農村産業の活性化

と地域振興のための新たな視点と実践的な経験を得ることができました。

日本各地には、それぞれの特徴があり、片品村では美しい田園風景の魅力を感じました。中国の美しい村も地元の産業や文化の長所や特徴を活かし、魅力を宣伝していくことを願っています。

◆形式が異なる講義や活動を通じ、日本の農村の現状や問題点、対策について、多角的に深く理解することができました。道の駅の視察はとても印象深く、日本の環境保護への重視も尊敬に値し、学ぶ価値がありました。同時に、訪日団の他の団員と一緒に学び、話すことで、中国の農村発展の状況についても理解を深めました。今回の活動では大きな刺激を受けました。文化芸術を通じて中国の農村発展の活性化に貢献できるよう、今後の仕事ではこの点に特に注意を払っていきたいです。また、将来これらの分野における日本の専門家や実務家と交流する機会が増えることを願っています。

グループ2

◆セミナー講師から日本の幼児教育の歴史、現状、特徴、今後の動向について説明を受け、中日両国の幼児教育の共通点と相違点について、より深く理解するきっかけとなりました。「子ども中心」の白梅幼稚園とあさひの保育園を訪問し、どちらも「生きた教育」という理念を掲げ、子どもの特性を尊重し、子どもの自主性に注意を払い、特に子どもの情操教育において、生活や自然に寄り添い「心の育み」など、独自の実務経験と革新的なアイデアがあり、とても参考になりました。幼稚園や保育園の教育活動において、日本は伝統文化や伝統的礼儀作法の教育指導を重視しており、これは国民全体の資質の向上に極めて重要な役割を担っていると思いました。日本は公衆衛生と環境保護の意識レベルが高く、国民は健康と環境保護に対して強い意識を持っていると感じました。

◆幼児教育をテーマとした分団に参加し、教育における概念や文化の似ていることや異なることを学び、園長先生の丁寧な紹介を通して、子どもたちの一日の生活の細部の特徴や段取りを具体的に理解することができました。特に細部の内容がとても良く、学ぶ価値がありました。しかし、国の状況が異なるため、それらの多くは簡単に実施できるものではありません。それでも現地の状況から学ぶことはあります。今回の訪問では、日本の文化と中国の類似性を感じ、中国と日本の友好関係は、教師自身が職務を通じて正しく客観的に導く必要があると感じました。ホストファミリーの温かい歓迎は、地元の人々の親切さ、素朴さ、誠実さを感じ、たった1日でも十分温かさを実感しました。機会があればまた訪れたいと思います。

◆今回、児童の体験型複合施設、幼稚園、保育園の視察や幼児教育に関する講義聴講、地方での民泊体験、文化施設や無形文化遺産の見学を行いました。濃密で充実した時間を過ごすことができ、日本社会、特に幼児教育については身をもって経験しました。幼稚園での子どもたちの自立心や問題解決能力の育成方法は非常に印象深かったです。白梅幼稚園で行われていた、子どもたちが自然に触れながら、簡単な材料で自分のおもちゃを作るという方法は、とても参考になりました。3歳未満児の保育に関する施策や実践は、家族の負担をある程度軽減することができるということを知り、刺激を受けました。

グループ3

◆セミナー講師から日本におけるボランティア活動の実施状況を聞き、日本人のボランティア参加率に驚きました。参加率 26%という数字はボランティア活動の発達を示しています。4 人のボランティア経験者との交流では、彼らが年齢や危険を顧みず、献身的にボランティア活動に取り組んでいることに感銘を受けました。今回の活動で一番印象に残っているのは、公益財団法人阿蘇グリーンストックでボランティア活動について学んだことです。農村地域で公益事業を実施するにあたり、如何にボランティアの力を発揮させているか知りました。ボランティア活動は、知らない人同士を結びつけ、共通の目標に向かって一緒に行動します。ボランティア活動は、報酬や損得を勘定に入れず、愛と幸せという報酬を得ることができます。ボランティア活動に国境はなく、より多くの人々がボランティアに参加し、調和のとれた美しい生活環境を作るために、共に努力することを願っています。

◆今回の活動で印象に残ったことは沢山あります。一つ目は、ボランティアが社会で果たし続ける役割や、ボランティアコミュニティの多様化等の問題に対する日本の取り組みです。セミナー講師から日本では障害者もボランティア活動に参加していることを聞きました。障害者のボランティアがいることは、障害者同士助けになると思います。例えば、聴覚障害者が、馴染みのない言語に対する緊張や恐怖を克服し、手話を使ってコミュニケーションをとれるからです。これは私たちのボランティア活動にとり、非常に刺激になります。

二つ目は、熊本での民泊体験です。洋食店を営む老夫婦が出迎えてくれ、素晴らしい食事を用意してくれました。また、温泉にも行き、日本の温泉文化を体験しました。言葉の壁が多少あり、語学力の向上に向け、これから若者が努力する必要があると感じました。しかし、人と人との交流は、笑顔やボディランゲージがあれば、言葉の壁を越えた感情を感じることができます。ホストファミリーとの別れの際に、お互いの健康と仕事の成功を願い、長い時間抱き合いました。特定の相手と深い感情的なつながりを持てるかどうかは、コミュニケーションがすべてと感じました。

◆ボランティア活動をテーマに東京と熊本のボランティア団体のスタッフとボランティアの方々と直接交流し、日本のボランティア活動のレベルの高さに感銘を受けました。日本のボランティア活動の発展性の高さ、ボランティアの中でも特にシニアボランティアの熱意、現在の日本の社会発展プロセスにおけるボランティアが果たす役割の大きさに感嘆せずにはられません。日本におけるボランティア活動の本質は、人々が自ら起点に立ち、人類の未来を共にするコミュニティ作りを推進し、国の平和と発展のための具体的な取り組みだと感じました。より良い生活、より良い世界を求める日本人の探究心や熱意は賞賛に値します。また、今回の活動を通じて、帰国後は余暇時間を利用し、より多くのボランティア活動を行い、中国の社会発展に貢献したいという決意を新たにしました。国と国との友好は人と人の繋がりでることから、まず自ら中日両国の人々の友好交流を進めていきたいと思っています。

4. 受け入れ側の感想（抜粋）

◆青年団の構成も多様であり、様々な分野において今後中心的な役割を果たすことが期待される青年達であり、こうした方々に日本の地域に対する理解を深めていただくことは、群馬県のみならず、

日中両国の友好関係の維持・強化にもポジティブな効果が期待できる意味ある事業と考えます。

◆受入側ガイドの様子について、当日までは不安の声が大きかったのですが、皆さんをご案内させていただいたことで自信となり、インバウンドについても積極的に受け入れていこうという雰囲気になってきました。

◆参加者が熱心にプログラムに取り組んでおり、好感が持てた。ファームステイ受け入れ家庭も充実した交流ができた様子だった。

◆私にとっても中国の先生方がどのようなことに興味があるのかを知ることができ、非常に有意義でした。とても熱心に保育活動を見られていたり、ぞうきんがけなどにも積極的に参加されている姿が印象的でした。また今回は、中国の楽器の演奏もあり、子ども達もとても興味深かったようです。ご家庭でも話をしていたということを保護者の方から聞きました。このように、視察だけでなくお互いの文化交流ができると非常に良いと思いました。

◆しっかり学ぶ姿勢が感じられ、とてもいい刺激がありました。中国と日本のボランティア文化に似ているところがありこちらも学ぶことができました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	赴日第4天、跟随交流团考察了群馬赤城“道の駅”。第一次听到关于“道の駅”的概念，只有同时拥有供游客休息、信息传播以及振兴地方产业三种功能的，才能被称为“道の駅”。 “道の駅”服务于政府乡村发展计划，引入民间资本运营，展示乡村特色产品，推进地方产业发展，为我们推进乡村振兴、促进地方发展，提供了新鲜的视角和实践的经验。
2023年10月26日（上毛新聞） 「中国青年ら33人農業発展に理解」 県内農産物の生産や加工、販売、グリーンツーリズムなどについて理解、農業を軸に地域を活性化する事例に触れた等、群馬県内での主な訪問先やプログラムが紹介されました。	訪日4日目、群馬県赤城にある“道の駅”を視察しました。“道の駅”の概念を初めて聞きましたが、利用客の休憩、情報発信、地域産業の活性化という3つの機能を兼ね備えた場所だけが“道の駅”と呼べるそうです。 “道の駅”は政府の農村発展計画として、民間

	の資本運営を導入し、地域の特産品の展示、地場産業の発展促進を行っており、私たちに農村産業の振興と、地方発展を促進するため、新たな視点と実践的な経験を得ることができました。
🇯🇵 聆听了梅学园大学首藤美香子《关于日本的幼儿教育——为什么说游戏和玩具很重要》讲座，对日本的学前教育有了深刻的认识。游戏中的教师是孩子的朋友，是和孩子尽情游戏的玩伴。这种“玩伴”不仅仅是“陪玩”，更是教师爱上游戏、爱玩游戏，从而体验游戏的价值和快乐，享受游戏的魅力。我想，这大概是一种“内驱式”和“沉浸式”的游戏参与吧。另外，“用自己自制的玩具来玩”，孩子们和老师们都在享受玩具的快乐💕💕  うふふふふ	交流团到访日本的第一天，我们与四位来自东京的志愿者进行了深入地交流，聆听他们参与志愿服务的经历和收获。十分钦佩他们忘却年龄，忘记风险的志愿服务精神。志愿服务让相互不认识的人走到一起，为了一个共同的目标携手前进。志愿服务不计回报，不计得失，收获的是爱与幸福。希望通过志愿服务让更多需要帮助的人得到帮助，让这个世界变得更美好! 收起 
講義を聴き、日本の就学前教育を深く知ることができました。遊びの中での教師は子供たちであることから、子供と思いきり遊ぶようにする。この“遊びを伴にする”のは単に“遊びの相手をする”だけでなく、教師が遊びを楽しみ、遊びを好きになることで、遊びの価値と楽しみを体験し、遊びの魅力を感じる。これは一種の遊びの方法だと思いました。また、“自分で作った玩具で遊ぶ”ことで、子供たちも教師も玩具の楽しさを体感できることを知りました。	活動1日目に4名のボランティアと交流し、ボランティアに参加した経験や得たものを聞きました。年齢やリスクを忘れて活動するボランティア精神に感服しました。ボランティア活動は、知らない者同士を結び付け、1つの目標に向かって共に進み、見返りや損得を求めずに、愛と幸せを得ることができます。ボランティア活動を通じ、より多くの人を助け、この世界がさらに良くなることを願っています。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

	
【訪日中の学び】 東京農業大学や群馬県で講義を聴き、中国の高齢化や農村人口減少の解決に役立つ日本の人口減少対策について学びました。道の駅と片品村を訪れ、観光開発のアイデアを理解し、農村の活性化を推進する先進的な取り組みや革新的な経験を学びました。 【アクション・プラン】 日本で見聞きしたことを積極的に SNS に投稿し、同僚や家族、友人と共有して、仕事や生活の中で日本の文化をもっと学んでいきたいと思っています。	【訪日中の学び】 白梅幼稚園とあさひの保育園で異なるコンセプトの保育施設の実践を見学しました。中国と日本は、幼児期の訓練や保育において、同じ特徴や悩みを抱えていることが分かり、日本側も様々な形の探求をしてきたことが分かり、非常に有益な経験になりました。 【アクション・プラン】 今回の視察過程での経験や感情を友人や親戚に積極的に伝えます。機会があれば、中国と日本の文化交流活動にもっと積極的に参加していきたいです。
 【訪日中の学び】 日本は公共の福祉や慈善の特色が非常に色濃く、多くの公益財団法人が設立され、政府の機能が及ばない分野で非常に重要な責任を負っていると感じました。このように行政資源を節約し、社会や市場ごとに資源を配分する姿勢も、私にとっては大きな刺激になりました。 【アクション・プラン】 ボランティア活動について調査を実施し、ボランティア活動に関する報告書を作成し、上司に提出します。	

実施団体名：（公財）日中友好会館